

リコー三愛グループ
三愛会会誌

1991 No.102

リコー
三愛
三愛石油
リコーエレメックス
日本リース
北九州コカ・コーラボトリング
三愛不動産

JANNAI

特集 創業者市村清を偲ぶ



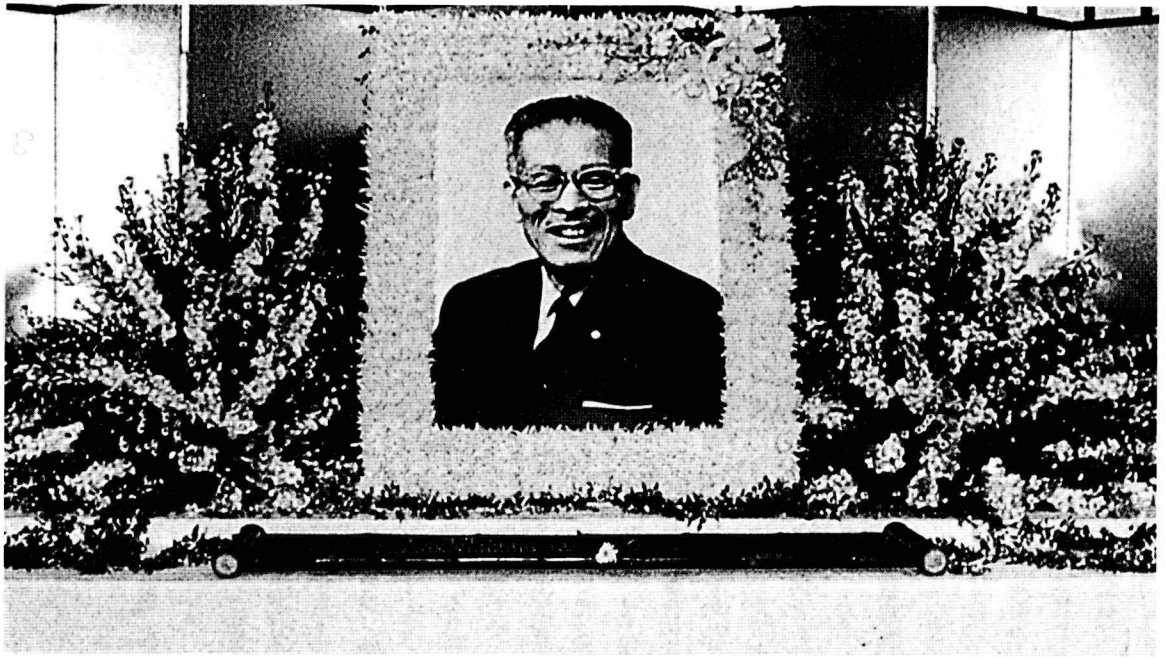
“創業者 市村清を偲ぶ会”

“創業者 市村清を偲ぶ会”（二十三回忌）が十二月十一日ホテルオークラにおいてリコー三愛グループ三愛会主催で催された。

市村会長が昭和四十三年十二月十六日に亡くなって今年で二十二年目、賑やかなことがお好きであった市村会長を偲んで、生前特にご縁の深かった外部の方、当時のグループ各社の役員だった方などをお招きして二〇〇名にのぼる方が参会された。

会場正面には、にこやかな笑顔の遺影が花で飾られ、数々の思い出の遺品が展示された祭壇が設けられていた。

司会者春永真理さんのさわやかな一声で会は始められ、はじめに三善三愛会会長がリコー三愛グループを代表して遺影に向かって市村会長が創業し育成した事業の近況についての報告とともに、「リコー三愛グループは市村の残



した経営の理念と方針を感うことなく引き継ぎ走るつもりでございますから、今後ともご支援くださいますように、市村の御霊に代わりまして心からお願ひ申しあげます」と挨拶をした。(要旨別掲)

つぎに(株)をこう社長の水島廣雄氏から故人を偲んでの思い出話がなされた。同氏は中央大学の同窓として故人と永年ご交誼をいただき、特に日本興業銀行にご在職中はリコーの草創期であり何かと高配を受けた方であり、現在も市村会長の遺産によって設立されている新技術開発財団(通称市村財団)の会長をされている。(要旨別掲)

宴のなかには衆議院議員原田憲氏から思い出話があった。同氏は故人の中学時代の同窓、故村山長一氏(大阪池田回生病院院長)のご紹介の縁で長い間お付き合いをされた方で、市村財団の評議員であり、政治家として運輸大臣、郵政大臣、経済企画庁長官を歴任し、現在自民党税制調査会顧問として活躍されている。(要旨別掲)

続いて思い出話をした大鵬部屋親方・大鵬幸喜氏は現役時代、故人がその抜群の技量と人柄を買ってひいきにし、また親方になって大鵬部屋を創設してからも親密な付き合いを続けていた。(要旨別掲)

その後も場内では、遺影の前で記念撮影をする人、隣室の展示写真説明を聴く人など、和やかな交歓風景が繰りひろげられたが、市村会長亡き今もリコー三愛グループに対し多くの理解者があることを改めて心強く感じられた。

外部ご参会者名簿(敬称略・五十音順) 荒木茂久二 飯田行雄 市村勲 市村和子 牛尾治朗 大植鈴 太田早苗 尾崎芳雄 片山光太郎 川田嘉一郎 数佐三郎 櫻村羔 北野隆興 邱永漢 木村起子 久保雄司 久良知章吾 桑先政男 後藤正夫 古賀常次郎 佐藤正忠 杉野喜一郎 数原洋二 高橋圭三 田喜光 大鵬幸喜 納谷芳子 田久保英夫 田尻光治 原田憲 原文兵衛 長谷川徳次 藤田一暁 藤森真 前野徹 三鬼陽之助 三木睦子 水島廣雄 村山経男 吉識雅夫 柳澤政一 横尾哲

グループ各社元役員(敬称略・順不同) (リコー) 吉田英夫 寶神嗣雄 原重敬 山本西平 原和 諸岡晃治 池田孝吉 竹林太郎。(三愛) 奈良正一 齋藤晃 石丸志都夫。(三愛石油) 森田清孝 小林清高 佐々木誠治 村田剛助 平達也。(日本リース) 大隈信幸 加藤正銘 花井孝 小林義彦 今泉耕吉。



原氏と三善会長



(左から) 三鬼氏、三善会長、三木さん

ご挨拶

リコー三愛グループの創業者 市村清が昭和四十二年十二月十六日に亡くなりましてから二十二年が経ち、今年二十三回忌に当たりますので、ご案内を申し上げたところ、師走のお忙しいさなかに、大勢お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今日は市村が生前ごく親しくしていただいた方々にお越しいただいたわけですが、没後二十年以上も経過いたしておりますので記録等さだかではなく、失礼を申し上げますことであろうかと思えます。

また本日は市村が社長をしておりました当時の、主な会社の重役であった人、並びに現役役員一同が、ご挨拶をかねて列席しております。二十二年間険しい状況があったり変転目まぐるしい中であって、一同力を合わせて何とか会社を運営してまいりました。

今日は市村会長にご報告するつもりで、二十二年間の経過並びに状況をお話したいと思います。

この二十二年の間に日本の経済は進展しました。オイルショック、ドルショックを経ながら、力強く世界的に発展するなど大きく様変わりしました。リコーなど生産会社は、以前は輸出関連振興企業として政府から表彰を受けましたが、最近では輸入を促進してほしいという要

リコー三愛グループ三愛会会長

三善信一

望があるような変わりようです。

戦後からの日本の激動期に会長は業種が一方に片寄ることなく、たくさんの会社を創業、育成して我々にお残しになりました。

また各社は会長の遺訓である、「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」という三愛主義を経営の理念とし、本日お集まりいただいた方々の他にもたくさんの方のご支援をいただいで、現在のところ順調な歩みを見せております。

その現状は、三愛会加盟の会社数が昭和四十三年当時の二十一社から五倍の百二十八社に、資本金百三十二億が九倍の一千百七十三億円。従業員数は一万二千名が四倍の五万名。また、会長がいつも気にいらした売上は、六百二十億程度だったのが、一兆七千億円と実に二十七倍にまで伸びました。

最近ではグループ各社の事業は、世界に羽ばたいております。したがって海外の拠点も、当時は三方所、駐在員数十名にしか過ぎなかったのが、現在は工場等を含めまして、拠点五十三カ所、現地従業員を含め七千四百人が仕事に従事しており、売上金額は二千二百億円にも及んでおります。

会長が申されておりましたように、事業の協力者である各社の従業員の皆さんが、真剣に職務に精励しました



挨拶される三善会長



会場風景（中央は浜田リコー社長）

し、外部の方々のご好意をいただき、今日の状態まで成長することができました。

なお、会長が残されたものに関して二、三のご報告があります。

佐賀県に寄付されました体育館の緞帳が古びましたので八年前新しく取り揃えて寄付いたしました。

また、会長の遺産でお作りいただきました新技術開発財団（通称市村財団）も、昭和五十八年には、生前懇懇にされていらした三笠宮寛仁殿下を総裁に仰ぎ、また極めて関係深かったごうの水島社長を理事長にお願いし、運営は会長が親しくされていた方々にお願ひしております。その後奥様がなくなられて全遺産を寄贈されましたので、財団のスケールは一回り大きくなり、わが国の新技術開発に貢献するという設立の趣旨に沿って運営されており、世評も極めて高くなりました。

次に会長が生前既に現在のアメリカとの関係を予見されてでしょうか、マイアミ市に日本庭園を寄贈されましたが、この庭園が少し荒れてきましたので一昨年、我々がマイアミ市と相談して修復いたしました結果、立派な庭園が再現いたしました。名称も市村日本庭園としてマイアミ市民の皆さんに愛されております。

なお、この縁でマイアミ市から日本のどこの市と姉妹都市になりたい、推薦してほしいと依頼され、先月十一月一日に鹿児島市との姉妹都市提携も実現いたしました。このような国際的友好関係の大きな基を作って頂いたことを、ありがたく思っている次第でございます。

会長が愛されたリコーグビー部はその後二回全国制覇をいたしましたけれど、今年も春の東日本大会で優勝もし、全国大会出場も今回で二十回目となり今やリコー三愛グループのシンボルとして活躍しています。

会長が創設された三愛会も、グループ各社の発展と団結をはかるため、色々な会議体を設けて、緊密な運営がなされておりますし、またご夫妻の温かい思いやりから生まれた、市村遺児育英会もご遺志を引き継いで三愛会で運営いたし物故社員の遺族から感謝されております。

以上遺影にご報告の形で近況をご案内申し上げますが、亡くなって時間がたてばたつほど偉大であったこと、先見の明があったこと、「先を見る」「みんなで協力してやれ」と言われていたことなど数々のご教示を思い出します。

我々は常に創業の精神に立ち返って、一同やっぴくつもりであります。残された事業がそれぞれ今の時代にふさわしいものであるだけに、大いにやり甲斐を感じております。またやらねばならぬと思っております。

飾られている遺影のこやかに笑っていらつしやるお姿は、六十八歳のままでとても若々しい。一方、会長がご健在の頃、まだ若い部長、あるいは課長であった人達もまた外部から参画いただいた人材も、それぞれ成長し年齢を取りましたが、遺影のとおり会長だけは昔のままです。

どうかこれからも、我々のことを見守って、見届けてくださるようお願い申し上げます。

市村さんを偲んで

水島 廣雄氏

市村さんが亡くなってから時間も相当たっております

ので、私の思い出話というよりも、市村さんが生前非常に仲良く慕っておられました方々から直に聞いたお話を報告させて頂きたいと思えます。

「チユウチユウ会」という子誕生まれの会があります。会長の永野重雄（元新日鉄会長）さんに、私はよくご指導頂きましたが、席へ伺うたびに、市村さんの話があるので

す。
「あいつは、すごい鋭角的な錐のような頭の奴だ。しかし水島君『囊中の錐』は現れずだ。あれぐらいいい放題言う奴には、どうも尊敬という言葉は当たらないね。この世の中に総理大臣以下偉い奴なんて居やしないよ。今の日本に『偉人』なんて言葉を使える奴は居やしない」

「どういことですか」

「市村は好きな男だよ」

これが永野さんの市村評、『好きな男』、最高の褒め言葉なのでしようね。

もうひとつ、三木武夫（元総理大臣）さんの話です。

これは終戦後の秘話ですが、野村證券に奥村綱雄（元社長）という情報の早い男がおりました。当時私は銀行で融資をやっていたんですが彼が飛んできて、

「おい君は内閣が『吉田』かといっただけれどそうじゃないよ。三木武夫に決まってるぞ」と。このスピードに負けない早耳の突っ走り市村さんで、

「おい決まった。総理は三木武夫に決まったぞ、水島

さんすぐ赤坂へ来い」……。

これぐらい惚れっぽい人でもありました。

次に石坂泰三（元経団連会長）さんの話です。

「とにかく水島さん、市村というのは変わり者だよ。しかし、あれは可愛い奴だよ」

「あいつはニコニコしているけど、とんでもないことをやらかす。少々いたずらで世間を騒がすが、僕にとっては可愛い奴だなあ」

言葉どおり石坂さんは、市村さんをとっても可愛がっていたらしい。始めから終わりまで市村さんをかばったのは、石坂泰三さんです。

また市村学校というのが、昭和三十二、三年ごろできて東京は五島昇さんなどが参加され、名古屋の財界にまで及び市村学校は中京地域に大きく羽ばたきました。そのとき石坂さんは、

「俺はね人生五十年というけど、小学校のことは八十年たっても覚えてるよ。変な話だけど、隣の席の女の子が綺麗で憧れておったなあ。そんなことは何年たっても覚えてるよ。ところが明日のことは誰も想像できないんだ。しかし市村は平気で明日のことを予測してしゃべり、準備を整えておる。あれは感心だよ。私のいう『尊敬』という言葉は、明日のことが言える人に対してだ。日本の経済だって三カ月先は分らん。そのような時期に明日のことを平気で言える人は珍しい」

とおっしゃったのを覚えています。

私は永野さんや石坂さんのように偉くはありません。



原田憲氏



水島廣雄氏



(左から) 市村三愛不動産会長、水島氏、邱氏、三鬼氏、大鵬氏



(中央) 大鵬幸喜氏

後輩、末輩ではございますが、市村さんのことをひとこと言わせて頂ければ、

「北辰そのところに居りて 衆星ごとくこれに向かう」
こういう人だったと思います。

原田 憲 氏

市村さんの勿頸の友、村山長一さんが池田市の回生病院院長として来られたころ、私は肺を病んで村山先生に診てもらっていました。それがきっかけで市村さんをおい知ったのです。

昭和四十三年に、運輸大臣を拝命いたしました折しも市村さんが危篤との知らせで、病院へ駆けつけました。奥様が「あなたの好きな憲さんが来たわよ。大臣になつたそうよ」と言われると、市村さんは嬉しそうな顔でうなずいてくれました。それが市村さんとの別れでありました。

市村さんが創られた市村学校も、今では五島昇さんも

大鵬 幸喜 氏

私もいろいろな人と接触させていただいて、さまざまなおことを学びました。腹が立つこともあるが我慢しなきゃならないということも。裸一貫で相撲社会に育つてきて、稽古も厳しい、耐えることを知らなくてはいけない、それと一緒に思いました。なにことも辛抱しなくてはいいません。私は「忍」という字が大好きです。

経営の神様、アイディア社長などと評され、日本を代表する企業家市村社長は、いろいろなことをやってこられました。私は可愛がっていただき、よく遊びにいった

逝つてしまふ本当に寂しい思いをし、いつぼう、ここまで日本を引っ張ってきたが、近ごろの若い人を見てみると、やがて私たちが天国へいった二十一世紀には「日本という国ありき」ということになるのではと心配になった。しかし、今日これだけ大勢の人が来ていれば、まだまだそれは大丈夫でしょう。

市村さんの精神を受け継いで、皆と共にこの国のために働いて行けば、人を愛し、国を愛する」と言つた市村さんに対して恩返しになるのではないかと思います。どうぞ皆さんそのつもりで頑張ってください。

は、その折のご苦労話を伺つたものでした。

現役を退き、一般の社会に戻つて、私もさまざまなおことをやっていますが、今になって市村さんからお聞きしたことが大変なためになっています。

今日は二十三回忌にお招きいただいた上に私のような若輩者が、このように思い出話をさせていたくなんて、大変に光栄な事でございます。

市村さんのご冥福をお祈りいたします。